

地球惑星科学委員会IUGG分科会IACS小委員会（第26期・第1回）議事要旨

1. 日時 令和6年6月10日（月）16:20～17:25
2. 会場 オンライン会議（ZOOM）
3. 出席者 中村、尾関、榎本、川村、坂井、杉浦、杉山、竹内、野村、藤田、山口
4. 議事

（1）役員の選出

世話人より委員長と幹事の決定について説明がなされ、第26期のIUGG分科会IACS小委員会の委員名簿（資料2）を確認した後、尾関委員が委員長に、杉浦委員が幹事に就任することが決定した。

（2）議事要旨の提出に関する委員長一任について

委員長より、当小委員会の議事要旨の提出については、議事要旨の案を委員へ回覧した後、日本学術会議へ提出する前の最終版の承認を委員長に一任することについて説明がなされ、承認された。

（3）小委員会委員間のメールアドレス共有について

委員長より、今後の小委員会活動において委員のメールアドレスを委員間で共有する必要があることについて説明がなされ、承認された。

（4）第25期からの引き継ぎ事項

委員長より、資料1および資料3に基づき第25期からの引き継ぎ事項について説明があった後、以下について決定した。

- ・今後、積極的にIACSの活動や積雪の国際分類を公益社団法人日本雪氷学会で広報することとした。ポスター発表も検討する。
- ・IACSの若手賞Early Career Scientists Awardへの積極的な推薦を呼びかけることが確認された。
- ・積雪の国際分類の電子出版を機会としてIACS関連の日本語ホームページ作成を検討することとした。
- ・若手の人数が全体的に減っていることから、若手が海外に行く機会を得られるように、積極的に会議情報を流すこととした。

（5）今後のIACS小委員会の活動

委員長より、公益社団法人日本雪氷学会が手がけているIACSの季節積雪の国際分類の日本語訳が、PDF版の完成を待っている段階であることの説明があった。Division I (Snow and Avalanches)のHeads of DivisionsであるRebecca Mott (Switzerland)とは昨年11月に元IACS小委員長でありこの国際分類の編者でもある西村氏が原稿の仕上がり具合と今後の予定を報告している。今後は、PDFができ次第、公益社団法人日本雪氷学会で然るべき手続きを踏んで、IACSに連絡を取る予定である。

（6）その他

委員長より、令和5年11月14日に行われた第26期第1回の地球惑星科学委員会IUGG分科会の会議報告があった。続いて、中村委員から地球惑星科学委員会の組織図と、Year Book 2024の説明があ

った。

榎本委員から雪氷圏科学関連の国際動向として、Arctic Science Summit Week 2024 (エディンバラ) での IACS の紹介に関する報告があった。また ICARP IV で 2025 年を目処に北極研究のこれからの 10 年間の長期計画を作成しており IACS も関わっていることが紹介された。昨年の One Planet - Polar Summit (パリ) において Cryosphere が強調され、2025 年に UNESCO が International Year of Glacier Preservation を計画していること、さらに UN Decade of Cryospheric Science の提案を作成中であるとの報告があった。最後に 2024 Arctic Circle Assembly (アイスランド) が 10 月に開催され、パリの会議を受けた意見交換が計画されていることの紹介があった。

<配布資料>

資料 1 : IACS 小委員会 (第 25 期・第 4 回) 議事要旨

資料 2 : IACS 小委員会 (第 26 期) 委員名簿

資料 3 : IACS 小委員会第 25 期からの引き継ぎ事項

参考資料 1 : 委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン (230925 改正)

参考資料 2 : メール審議の実施について (第 178 回幹事会決定)

参考資料 3 : 地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IACS 小委員会の設置について